

## 令和5年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 今町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

###### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 児童質問紙調査

###### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	国語科の学習について楽しさや必要性を肯定的にとらえている児童は多い。学習の中で自分の思いや考えを表現すること、特に「書く」ことを苦手としている児童が多い。
	よくできた問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	算数科の学習についての質問に肯定的に回答している児童の割合が、すべての項目で県・全国を下回っている。特に「算数の学習が将来役に立つ」ことについての数値が低く算数の学習に対する必要性を感じられている児童が少ない。
	よくできた問題	( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題
	努力が必要な問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○学校での学習活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の中でICT機器を使うことの効果」について、肯定的にとらえている児童は、県・全国と大きな差はなかったが、「授業中に使用した」という回答を見ると、週3回以上使っていると答えた児童の割合が県・全国よりも大きく下回っていた。ICT機器の活用について児童が効果と必要性を感じている以上、ICT機器に触れる機会を今以上に確保するとともに、活用法について職員研修を設定する等し、積極的にICT機器を使う体制を整える。</li> </ul> <p>○家庭での生活習慣等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎日同じ時刻に寝ている・起きている」について肯定的に回答した児童は、県・全国の数値を上回っている。ところが、「毎日の朝食」と「家庭学習に費やす時間」についての数値が、県・全国よりも大きく下回っており、家庭での時間の使い方について指導と啓発が必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

国語科、算数科ともに自分の考えを発表したり書いたりするなど、表現することに苦手意識をもっている児童が多い。発表の仕方のマニュアルを作って小グループでの発表を行うなど、スモールステップで学習を取り入れたりと、ICT機器を使ったプレゼン形式の発表を取り入れたりする工夫を行うようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習については、プリントやワーク等の宿題に加え、現在取り組んでいる「自学ノート」の使い方について学力向上推進部で検討し、よりよい活用法を考える。生活習慣については校内で立ち上げている「学校保健委員会」での、生活習慣（朝食・睡眠・歯磨き等）改善に向けての取り組みを継続し、児童の意識改革を引き続き行う。